

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

11046 U.S. PTO  
10/085618  
03/01/02

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 3月 1日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-056784

[ST.10/C]:

[JP2001-056784]

出 願 人

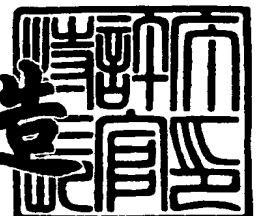
Applicant(s):

シャープ株式会社

2002年 2月12日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3006747

【書類名】 特許願

【整理番号】 01J00244

【提出日】 平成13年 3月 1日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G03B 17/56

【発明の名称】 ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器

【請求項の数】 3

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

    【氏名】 荒金 豊浩

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

    【氏名】 今井 公昭

【特許出願人】

    【識別番号】 000005049

    【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100085501

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 佐野 静夫

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 024969

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 1 - 0 5 6 7 8 4

【包括委任状番号】 9003086

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器であって、撮影時にカメラレンズよりも下方となる位置にハンドストラップ取付部を設けたことを特徴とするハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器。

【請求項 2】 ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器であって、ハンドストラップ取付部に取り付けられたハンドストラップをカメラレンズの撮影範囲外において揺動しないように保持する保持手段を設けたことを特徴とするハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器。

【請求項 3】 前記保持手段を筐体に一体的に形成したことを特徴とする請求項 2 に記載のカメラ付モバイル機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

最近、カメラ付携帯電話が製品化され、徐々に普及しつつあるのは周知の通りである。ところで、一般的な携帯電話はハンドストラップ取付部を有しており、カメラ付携帯電話にあっても、ハンドストラップは必要不可欠というほどのものではないものの、落下防止等のために便利なものであるので、ハンドストラップ取付部を有しているのが好ましい。

【0003】

図 1 は従来のカメラ付携帯電話の一例を示す図であり、(a) は背面図、(b) は側面図、(c) は正面図である。これらの図において、1 は携帯電話本体、2 はアンテナ、3 はハンドストラップ取付部、4 はハンドストラップ、5 は表示

部、6は受話部、7は操作入力部、8は送話部、9はカメラレンズ、10は電池収納部（不図示）を覆う蓋である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

カメラ付携帯電話は製品化されて日が浅いため、ハンドストラップ取付部の位置については、特に撮影時の取り扱い性を考慮して決められておらず、図1に示す例の如く、一般的な携帯電話と同様にハンドストラップ取付部3は携帯電話本体1の上部に位置していることが多い。

【0005】

そのため、撮影時にハンドストラップ4がカメラレンズ9の撮影範囲内に入らないよう、ハンドストラップ4の位置を常に確認、注意しながら撮影を行う必要が有るが、被写体に気をとられてハンドストラップ4がカメラレンズ9の前に位置しているのに気付かずにシャッターを切ってしまったり、また、シャッターを切る直前に風が吹いてハンドストラップ4がカメラレンズ9の前を通過して撮影されてしまうことがある。また、携帯電話本体1を斜めにして撮影を行う場合にハンドストラップ4がカメラレンズ9の前に位置してしまうこともある。ハンドストラップ4が誤って撮影されてしまうと、せっかく撮影したフィルムや写真が無駄になってしまうことになる。なお、このような問題は携帯電話に限られるものではなく、カメラとハンドストラップ取付部を有する他のモバイル機器にも存在する。

【0006】

本発明は上述した課題を解決することを目的としてなされたものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

上述した目的を達成するために、第1の発明は、ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器であって、撮影時にカメラレンズよりも下方となる位置にハンドストラップ取付部を設けたことを特徴としている。

【0008】

このような構成によれば、撮影時にハンドストラップがカメラレンズの前に位

置ることがなく、少々風が吹いてハンドストラップが揺動してもハンドストラップがカメラレンズの前を通過することがないので、誤ってハンドストラップが撮影されてしまうのを防ぐことができる。

## 【 0 0 0 9 】

また、第 2 の発明は、ハンドストラップ取付部を有するカメラ付モバイル機器であって、ハンドストラップ取付部に取り付けられたハンドストラップをカメラレンズの撮影範囲外において揺動しないように保持する保持手段を設けたことを特徴としている。

## 【 0 0 1 0 】

このような構成によれば、撮影時にハンドストラップがカメラレンズの撮影範囲内に位置することがなく、風が吹いてもハンドストラップが揺動することがないので、誤ってハンドストラップが撮影されてしまうのを防ぐことができる。また、モバイル機器本体を斜めにして撮影してもハンドストラップが撮影されることがない。

## 【 0 0 1 1 】

また、第 3 の発明は、第 2 の発明において、前記保持手段を筐体に一体的に形成したことを特徴としている。

## 【 0 0 1 2 】

この場合、筐体を成形する金型の製作費は少々上がるものの、部品コストは上がらないので、製造コストが大幅に増加することがない。

## 【 0 0 1 3 】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明を携帯電話に適用した実施形態について図面を参照しながら説明する。図 2 は本発明の第 1 の実施形態を示しており、(a) は背面図、(b) は側面図、(c) は正面図である。なお、以下の各実施形態において、図 1 に示す従来例と対応する部分には同一の符号を付してあり、同一の部分については説明は省略してある。

## 【 0 0 1 4 】

本実施形態では、通常の撮影時、すなわち携帯電話本体 1 の上部を垂直上方に

向けた状態においてカメラレンズ9の下方となる位置にハンドストラップ取付部3が設けられており、撮影時にハンドストラップ4の位置を意識しなくてもハンドストラップ4がカメラレンズ9の前に位置することがない。また、ハンドストラップ4はカメラレンズ9側に90°以上回転しなければカメラレンズ9の前を通過しないため、少々風ではハンドストラップ4がカメラレンズ9の前を通過することはないと考えられる。したがって、ハンドストラップ4が誤って撮影されるのを防ぐことができ、フィルムや写真が無駄になることがない。

## 【0015】

また、本実施形態の場合、従来のカメラ付携帯電話と比べてハンドストラップ取付部3の位置が異なるのみで、新たな部品が追加されていないため、部品コストが上がることはない。

## 【0016】

図3は本発明の第2の実施形態を示しており、(a)は背面図、(b)は側面図、(c)は正面図、(d)はA-A線断面図である。本実施形態では、蓋10(筐体)の外面上部に突起11(保持手段)が一体的に形成されている。この突起11は縦断面鉤形状に形成され、下方に突出しており、蓋10との間にハンドストラップ4の自由端部を受け入れる隙間を形成している。この隙間にハンドストラップ4の自由端部を挿入すると、ハンドストラップ4の自由端部が突起11と蓋10との間に挟圧保持されるようになっている。この突起11によってハンドストラップ4はカメラレンズ9と反対の側に保持され、撮影時にカメラレンズ9の前にハンドストラップ4が位置するおそれはない。また、風が吹いたり、携帯電話本体1を斜めにして撮影したりしても、ハンドストラップ4が揺動せず、一部だけしか動かないため、ハンドストラップ4が撮影されることはない。

## 【0017】

なお、本実施形態では、突起11が蓋10に一体的に形成されているため、従来のカメラ付携帯電話と比べて蓋10を成形する金型の製作費は少々上がるものの、新たな部品を必要としないため、部品コストが上がることはない。

## 【0018】

図4は本発明の第3の実施形態を示しており、(a)は背面図、(b)は側面



図、(c)は正面図、(d)はB-B線断面図である。本実施形態では、携帯電話本体1の外装ケース(筐体)の一側面の上部に突起11A(保持手段)が一体的に形成され、同じ側面の下部に突起11B(保持手段)が一体的に形成されている。突起11Aは横断面鉤形状に形成され、前方に突出しており、前記外装ケースの一側面との間にハンドストラップ4の基端部を受け入れる溝状の隙間を形成している。この隙間にハンドストラップ4の基端部を挿入すると、ハンドストラップ4の基端部が突起11Aと前記外装ケースの一側面との間に挟圧保持されるようになっている。

#### 【0019】

一方、突起11Bは縦断面鉤形状に形成され、下方に突出しており、前記外装ケースの一側面との間にハンドストラップ4の自由端部を受け入れる隙間を形成している。この隙間にハンドストラップ4の自由端部を挿入すると、ハンドストラップ4の自由端部が突起11Bと前記外装ケースの一側面との間に挟圧保持されるようになっている。突起11A、11Bによりハンドストラップ4は前記外装ケースの一側面上に保持され、撮影を行ってもハンドストラップ4がカメラレンズ9の前に位置するおそれはない。また、風が吹いたり、携帯電話本体1を斜めにして撮影したりしても、ハンドストラップ4が揺動せず、一部だけしか動かないため、ハンドストラップ4が撮影されることはない。

#### 【0020】

なお、本実施形態では、突起11A、11Bが前記外装ケースに一体的に形成されているため、従来のカメラ付携帯電話と比べて前記外装ケースを成形する金型の製作費は少々上がるものの、新たな部品を必要としないため、部品コストが上がることはない。

#### 【0021】

なお、本発明は携帯電話以外のモバイル機器に適用することもできる。

#### 【0022】

#### 【発明の効果】

以上説明したように第1の発明によれば、撮影時にカメラレンズの下方となる位置にハンドストラップ取付部が設けられたことにより、撮影時にハンドストラ

ップがカメラレンズの前に位置することがなく、少々風が吹いてハンドストラップが揺動してもハンドストラップがカメラレンズの前を通過することがないので、誤ってハンドストラップが撮影されてしまうのを防ぐことができる。また、従来のカメラ付モバイル機器と比べてハンドストラップ取付部の位置が異なるのみで、新たな部品を追加する必要がないため、部品コストが上がることはない。

【 0 0 2 3 】

また、第 2 の発明によれば、ハンドストラップ取付部に取り付けられたハンドストラップをカメラレンズの撮影範囲外において揺動しないように保持する保持手段を設けたことにより、撮影時にハンドストラップが撮影範囲内に位置することがなく、風が吹いてもハンドストラップが揺動することがないため、誤ってハンドストラップが撮影されてしまうのを防ぐことができる。また、モバイル機器本体を斜めにして撮影してもハンドストラップが撮影されることがない。

【 0 0 2 4 】

また、第 3 の発明によれば、保持手段を筐体に一体的に形成したことにより、従来のカメラ付モバイル機器と比べて筐体を成形する金型の製作費は少々上がるものの、新たな部品を追加する必要がないため、部品コストが上がることはなく、製造コストが大幅に増加することがない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 従来のカメラ付携帯電話の一例を示す図。

【図 2】 本発明の第 1 の実施形態を示す図。

【図 3】 本発明の第 2 の実施形態を示す図。

【図 4】 本発明の第 3 の実施形態を示す図。

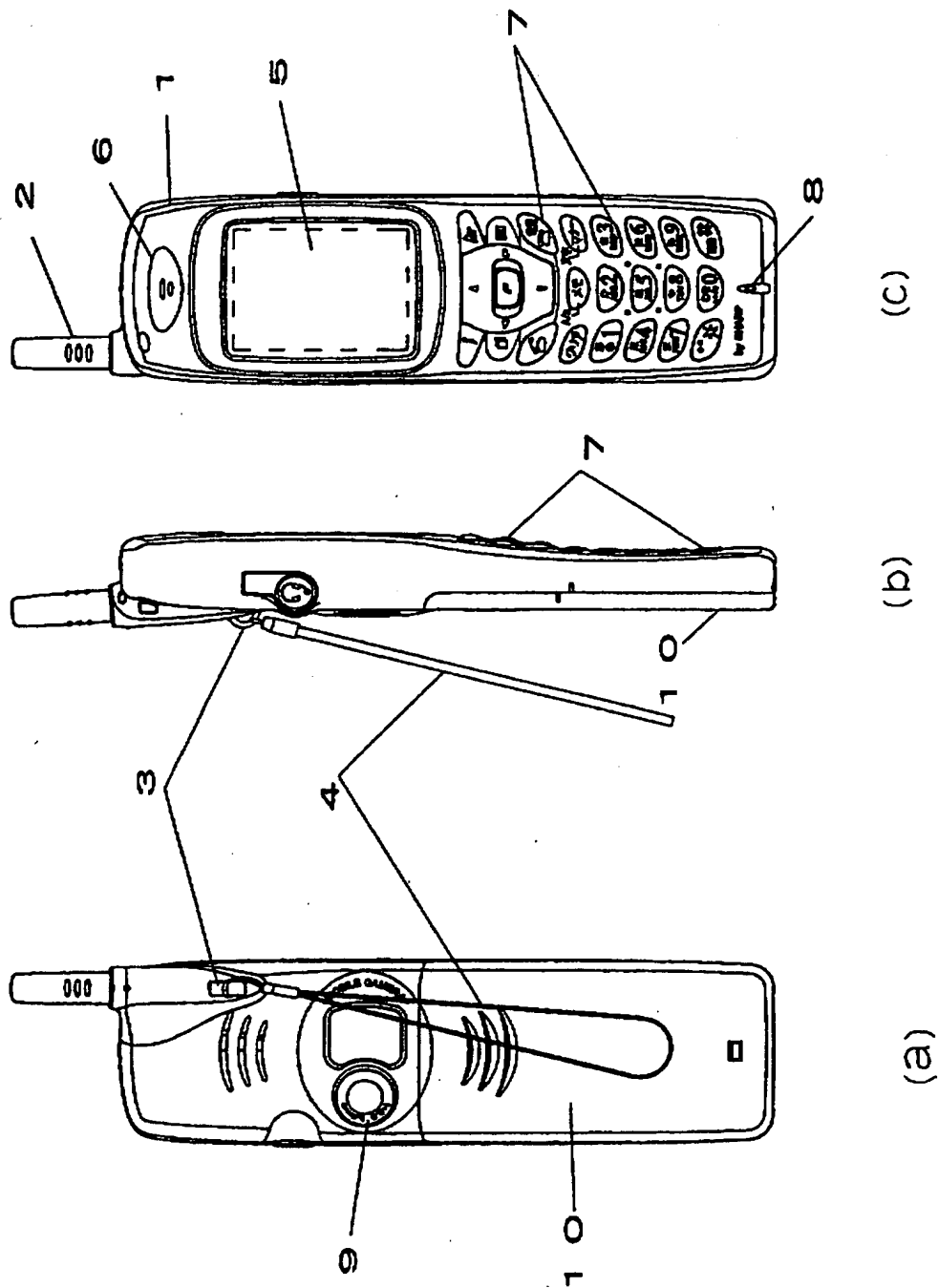
【符号の説明】

- 1 携帯電話本体
- 2 アンテナ
- 3 ハンドストラップ取付部
- 4 ハンドストラップ
- 5 表示部
- 6 受話部

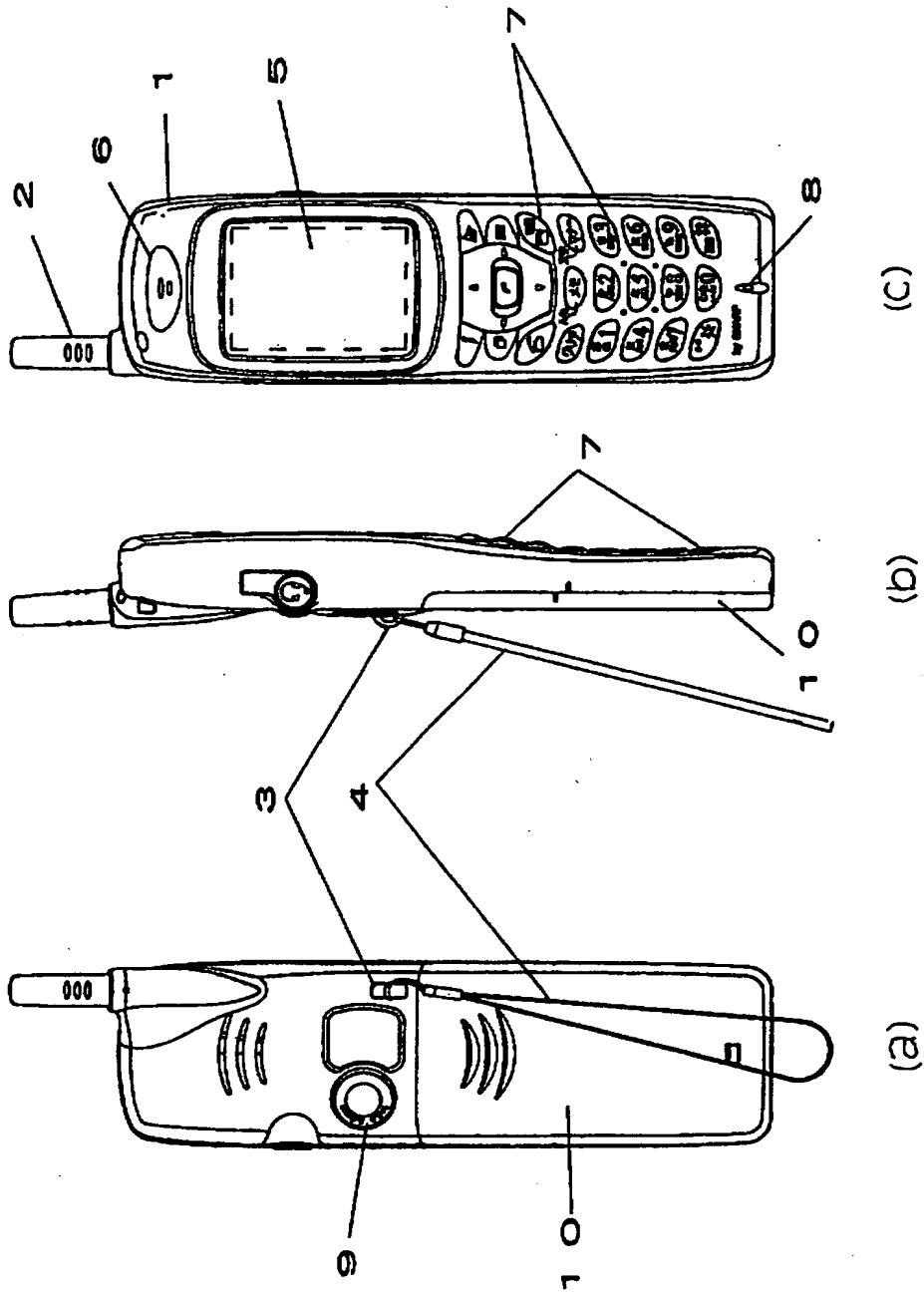
- 7 操作入力部
- 8 送話部
- 9 カメラレンズ
- 1 0 蓋
- 1 1 突起

【書類名】 図面

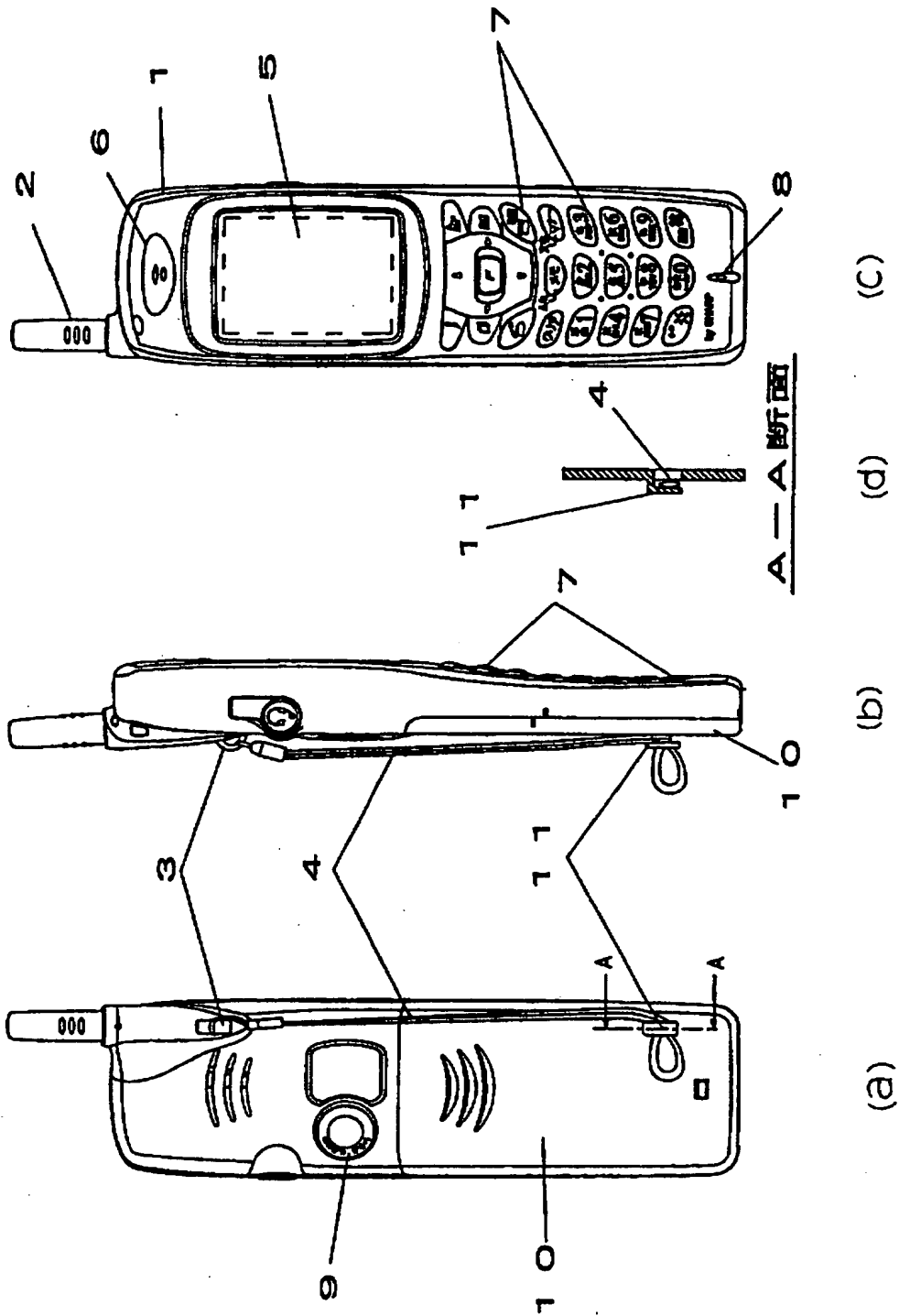
【図 1】



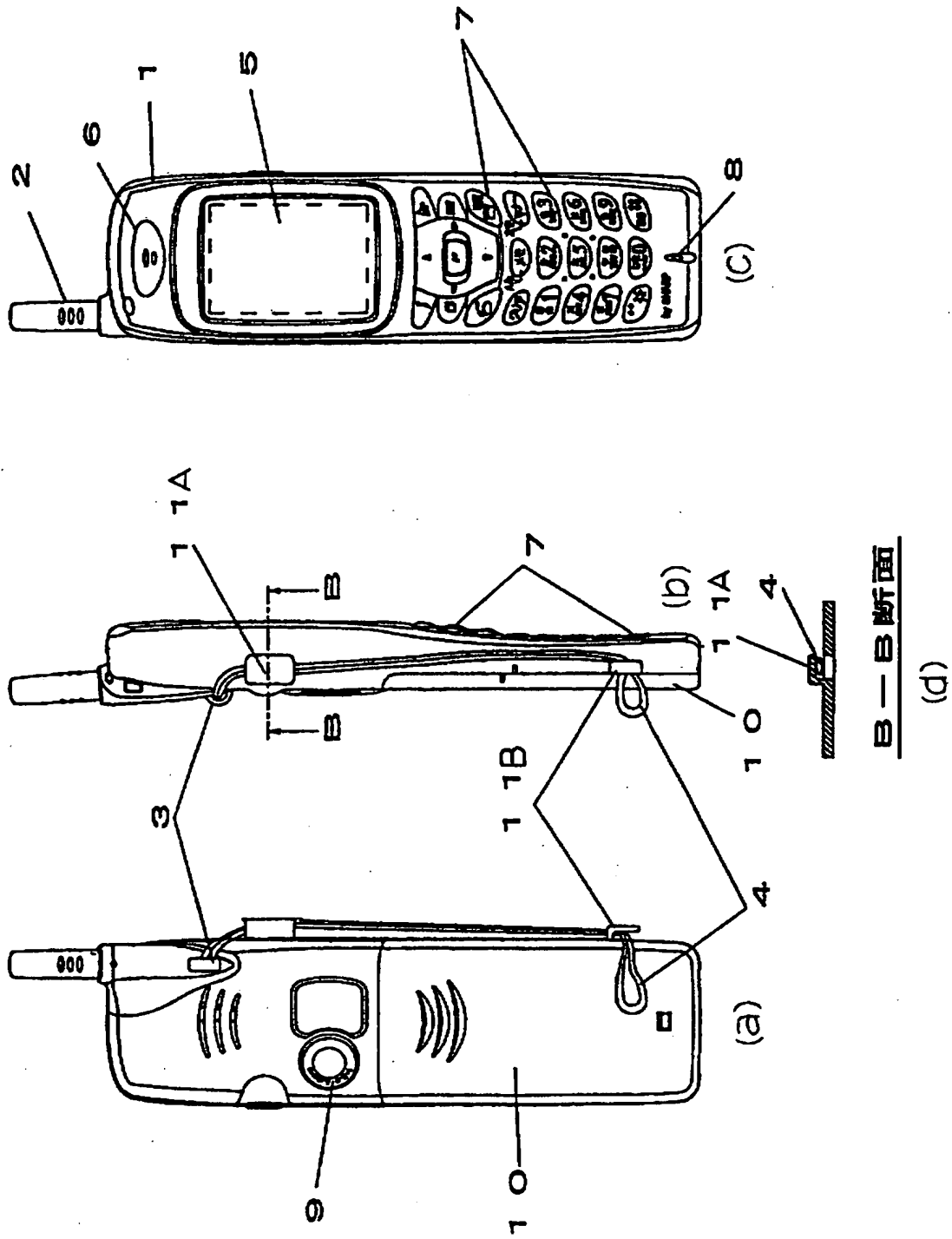
【図 2】



【図 3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 撮影時にハンドストラップが誤って撮影されないようにしたカメラ付モバイル機器を提供する。

【解決手段】 ハンドストラップ取付部 3 を有するカメラ付モバイル機器であって、撮影時にカメラレンズ 9 よりも下方となる位置にハンドストラップ取付部 3 を設けたことを特徴とする。

【選択図】 図 2



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日	1990年 8月29日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
氏 名	シャープ株式会社